

【生薬名】 乾地黄・熟地黄・鮮地黄 *REHMANIAE RADIX*

【起源植物】 アカヤジオウ *Rehmania glutinosa* var. *purpurea*
カイケイジオウ *R. glutinosa* f. *hueichingensis*



アカヤジオウとカイケイジオウ
93年11月7日・(広大薬草園)



左から生地黄・酒浸地黄・熟地黄(2個)

【科名】 ゴマノハグサ科 Scrophulariaceae

【別名】

【薬用部分】 根茎

【主成分】 カタルポール、マンニット、糖質、鉄分

【薬性】 気味は甘苦寒(乾地黄)、甘苦微温(熟地黄)、帰経は心肝腎に属す

【効能】 ●清熱涼血・生津

●補血、滋養強壯、貧血、鎮静、清熱、止血、糖尿病

●1日5～8gを煎じて服用する

●アトピー性皮膚炎には地黄と当归各2gを濃く煎じた液を風呂に入れて入浴すると皮膚が潤ってきて痒みが和らぐ

●熟地黄100gを杵臼リカ-500ml、石膏(ナマが良い)200gを杵臼リカ-1ℓで別々につけ、3ヶ月後に濾して両者を混ぜ合わせて飲むとボケの予防や脳疾患の予防によいという。当地の民間療法

●カイケイジオウよりもアカヤジオウが効能的には勝っているといわれるが、市場品の殆どはカイケイジオウである

●中国では生のものを鮮地黄、刻んで乾燥したものを乾地黄または生地黄、酒で蒸したものを熟地黄と呼び使い分けをしている

【出典】 ●主治血証及水病也(薬徴)

●生地黄 微寒、能く湿熱骨蒸、煩勞を清し兼ねて瘀血を消す。
熟地黄 微温、腎を滋し、血を補い、髓を益し、精を填し烏髭、黒髪。(薬性歌)

【備考】 ●胃腸虚弱は胃もたれを起こしやすく注意が必要

●乾地黄は肝、熟地黄は腎への作用が強いといわれる

【処方例】 ●四物湯、八味腎気丸など